

先端技術を駆使したシステムの提案を通じて 建設現場の生産性向上をサポート！

株式会社 創和

千葉県船橋市七林町 126 番地 112 URL : <https://sowa-corporation.com/HP/>

土木設計や施工監理、積算支援をはじめ、測量、CAD、現場ホームページの作成、ハードウェア・ソフトウェアの製作といった事業を手掛けている『創和』。先端技術を駆使したシステムの提案を通じて建設業界を下支えしている。そんな同社の西尾社長に、小倉一郎氏がお話を伺った。



interviewer
小倉 一郎



代表取締役
西尾 貴至



——早速ですが、西尾社長の歩みから。

奈良県出身です。大学と大学院で土木工学を専攻し、1995年に中堅ゼネコンに就職しました。東京に配属となり、現場での業務をはじめ設計など様々なキャリアを蓄積。その後、2007年に仲間と4人で独立することになったのです。そして取締役を務めた後、2008年に暖簾分けのようなかたちでこの『創和』を立ち上げて現在に至ります。

——順調に進みましたか。

設立間もなく、リーマン・ショックの影響を受けて苦しい状況に陥りました。何とか立ち直り、「さあこれからだ」と思った矢先に、東日本大震災が発生したのです。官公庁からの仕事をメインに請けていたため、それらが全てストップしてしまいました。またしても大きなピンチを迎えました。ただ、いくら深刻な状況であっても、考えたからといってどうなるというわけでもありません。必ずや挽回できる、きっとチャンスはあると前向きに考えて乗り切ってきました。

——前向きな姿勢は経営者にとって必要な資質といえるでしょう。御社では、設計といった建設業を手掛けておられて？

立ち上げ当初は設計業務などを手掛けていましたが、現在はマネジメントやコンサルティングがメインになりました。

当初はサラリーマン時代からお付き合いのある中堅ゼネコン1社との取引からスタートし、そこから紹介で徐々に取引先が広がってきました。人に支えられてきましたし、運とタイミングも良かったのだと思います。

——運とタイミングを引き寄せたのは社長の実力でしょう。具体的にはどのようなマネジメントやコンサルティングを？

現在、人口減少といった様々な要因で、特に建設業界は慢性的な人材不足が問題になっています。ですから、これまで現場の作業員が担っていた建設作業の効率化が大きく進んでいます。その中で私共は、GPSを活用したシステムや最先端の機械、プログラムなどを駆使して効率良く工事を進めることができよう、ご提案を行っています。たとえば、私共が開発した「品質管理データ統合システム」。品質管理や出来形管理で得られるデータをデータベースで一元管理します。それをもとに品質管理図や帳票などの作成が可能となり、さらに統計処理や維持管理にもデータを活用できます。

——建設現場の生産性向上につながるわけだ。

そうですね。2018年には国土交通省主催の「建設現場の生産性を向上する革新的技術の導入・活用に関するプロジェ

クト」において、「対象技術Ⅱ：データを活用して土木工事における品質管理の高度化等を図る技術」の1コンソーシアムとして、当社が選定されました。

——確かな実績を築いておられる。では最後に、今後についてはいかがですか。

極端に背伸びをするつもりはありません。「栄枯盛衰」という言葉もありますが、無理をして急激に成長しても、それは長続きしませんからね。けれども、将来的に事業が大きくなって手伝ってくれる人が出てきた時、「引き継ぎたい」と思ってもらえるような魅力的な会社になりたいと思っています。

(2019年3月取材)



「独立間もなくリーマン・ショックがあり、厳しい状況乗り越えてこられたという西尾社長。何とか生き残っているはずだと前向きに歩いてこられたことが今につながったのです。今後のご活躍が楽しみです！」 小倉 一郎・談

転載厳禁